

平成30年2月2日	資料1
第40回レセプト情報等の 提供に関する有識者会議	

第三者提供の成果物集計について

平成30年2月2日

厚生労働省保険局医療介護連携政策課
保険システム高度化推進室

背景

- ◆平成23年度より、医療費適正化計画策定に資する目的以外でのNDBデータの利用が認められ、有識者会議で承諾を受けた研究に対してNDBデータの第三者提供が開始された
- ◆現在（平成30年2月）まで167研究に対するデータ提供が承諾されている



今回、前回報告（第36回有識者会議）後に公表（学会発表・論文発表等）されたNDBデータ第三者提供の成果物について報告する

データ提供実績（平成30年2月時点）

	特別抽出	サンプリング データセット	基本データセット	集計表情報
基本的な イメージ	申出者の要望に応じ、データベースにある全データのなかから、該当する個票の情報を抽出し、提供する	探索的研究へのニーズに対応し、抽出、匿名化などを施して安全性に十分配慮した、単月分のデータセット	入院、外来、疾患別など目的に合わせて年度ごとに紐付けが可能で、簡易に分析することが可能なデータセット	申出者の要望に応じ、データを加工して作成した集計表を提供する
提供データ	個票	一部匿名化等を行った個票	大幅に加工した個票	集計表
含まれている データ項目例	レセプト情報、特定健診等情報に含まれている、ほぼすべての項目	希少な情報があらかじめ匿名化・削除されたレセプトデータ	患者の基本属性情報以外は、主傷病名、診療識別情報、要望に応じたコードなど	集計表
データ提供 承諾件数 (計167件)	91件	25件	2件	49件
研究目的での データ提供 承諾件数 (計108件)	55件	22件	2件	29件

利用実績

No	提供依頼 申出者	所属機関	演題名	発表 形式	発表媒体	発表時 期 (年)	発表者
1	恒石 美登里	日本歯科医師会・日本歯 科総合研究機構	Number of teeth and medical care expenditure in Japanese adults.	学会	IADR 95th General Session	2017	Midori Tsuneishi, Tatsuo Yamamoto, Takuo Ishii, Shigeo Sugiyama, Takeyuki Yamaguchi, Toshihiko Makino
2	恒石 美登里	日本歯科医師会・日本歯 科総合研究機構	NDBを用いた高齢者における歯数と誤嚥性肺炎に よる医科受診との関連	学会	一般社団法人日本老年歯科医学会第28回学術大会	2017	恒石美登里, 山本龍生, 石井拓男, 佐藤保, 山口武之, 牧野利彦
3	恒石 美登里	日本歯科医師会・日本歯 科総合研究機構	Number of teeth and medical care expenditure.	論文	ヘルスサイエンス・ヘルスケア	2017	Midori Tsuneishi, Tatsuo Yamamoto, Yasuyuki Okumura, Genta Kato, Takuo Ishii, Shigeo Sugiyama, Takeyuki Yamaguchi, Toshihiko Makino
4	今中 雄一	京都大学	医療の質の地域格差は正に向けたエビデンスに基 づく政策形成の推進	報告書	戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発） 科学技術イノベーション政策のための科学 研究 開発プログラム 研究開発プロジェクト（特別枠）研究開発実施終 了報告書	2018	今中 雄一
5	今中 雄一	京都大学	医療の質の地域格差は正に向けたエビデンスに基 づく政策形成の推進	報告書	科学技術イノベーション政策のための科学 研究 開発プログラム 研究開発成果報告書（特別枠）	2018	今中 雄一
6	今中 雄一	京都大学	地域における医療の質の指標 NDBデータ研究	Web(上 記報告 書にも 引用)	URL:http://plaza.umin.ac.jp/~kdev1/heqm-ndb/ 戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発） 科学技術イノベーション政策のための科学 研究 開発プログラム 研究開発プロジェクト（特別 枠）研究開発実施終了報告書内に引用	2017	京都大学 医療経済学分野
7	今中 雄一	京都大学	医療の質の地域格差は正に向けたエビデンスに基 づく政策形成の推進 “質を可視化し向上する ― 地域医療システムインディケータ”	Policy Paper	科学技術イノベーション政策のための科学 研究 開発プログラム	2018	今中 雄一
8	森本 耕三	結核予防会結核研究所	ナショナルデータベースを用いた非結核性抗酸菌 症の疫学研究	学会	第92回日本結核病学会総会	2017	御手洗聡、長谷川直樹、倉島篤行、 星野仁彦、南宮湖、泉清彦、森本 耕三
9	森本 耕三	結核予防会結核研究所	Spatial distribution and environmental risk factors of nontuberculous mycobacterial pulmonary disease in Japan	学会	ERS International Congress 2017, Milan, Italy	2017	K. Izumi, K. Morimoto, K. Uchimura, N. Hasegawa, M. Ato, S. Mitarai
10	森本 耕三	結核予防会結核研究所	ナショナルデータベースを用いた非結核性抗酸菌 症の疫学研究	学会	第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会	2017	泉清彦、森本耕三、川直樹、内 村和弘、阿学、御洗聡

利用実績

No	提供依頼 申出者	所属機関	演題名	発表 形式	発表媒体	発表時 期 (年)	発表者
11	中山 健夫	京都大学	大規模レセプトデータベースを用いた高齢者終末期医療の実態解明	学会	医療経済学会 第12回研究大会	2017	酒井未知、大寺祥佑、岩尾友秀、 ネフ由紀子、加藤源太、黒田知宏、 高橋由光、中山健夫
12	中山 健夫	京都大学	大規模レセプトデータベースを用いた高齢者終末期医療の実態解明	報告書	医療経済研究機構研究助成報告書（29年9月30日 医療経済研究機構に提出）	2017	酒井未知
13	中山 健夫	京都大学	大規模レセプトデータベースを用いた高齢者終末期医療の実態解明	口演発 表	医療経済研究機構研究助成成果発表会	2017	酒井未知
14	中山 健夫	京都大学	2016年度（第20回）研究助成 研究要旨 大規模レセプトデータベースを用いた高齢者終末期医療の実態解明	論文 (研究 要旨)	Monthly IHEP 2017-2018年 12・1月号	2018	酒井未知、大寺祥佑、岩尾友秀、 ネフ由紀子、加藤源太、黒田知宏、 高橋由光、中山健夫
15	森嶋 康之	国立感染症研究所	レセプトデータに基づくわが国における蠕虫症の 発生動向	学会	第77回日本寄生虫学会東日本支部大会	2017	森嶋康之、杉山広、山崎浩
16	鴨打 正浩	九州大学	急性期脳卒中診療におけるt-PA療法の普及および 地域格差に関する研究	修士論 文	九州大学大学院医学系学府 医療経営・管理学専 攻 修士課程 研究成果物	2018	前田 恵
17	鴨打 正浩	九州大学	急性期脳卒中診療におけるt-PA療法の普及および 地域格差に関する研究	発表	九州大学大学院医学系学府 医療経営・管理学専 攻 修士課程 研究発表会	2018	前田 恵
18	田辺 正樹	三重大学医学部附属病院	The first report of Japanese antimicrobial use measured by national database based on health insurance claims data (2011-2013): comparison with sales data, and trend analysis stratified by antimicrobial category and age group	論文	Infection. DOI 10.1007/s15010-017-1097-x	2017	Daisuke Yamasaki, Masaki Tanabe, Yuichi Muraki, Genta kato, Norio Ohmagari, Tetsuya Yagi.
19	田辺 正樹	三重大学医学部附属病院	Age-specific Distribution of Antimicrobial Use Surveillance using National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan (NDB Japan) 2011-2013	学会	ID week 2017	2017	Daisuke Yamasaki, Masaki Tanabe, Yuichi Muraki, Genta kato, Norio Ohmagari, Tetsuya Yagi.
20	田辺 正樹	三重大学医学部附属病院	Geographical analysis of Antimicrobial Consumption Surveillance using the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan (NDB Japan) 2011-2013	学会	ID week 2017	2017	Masaki Tanabe, Yuichi Muraki, Daisuke Yamasaki, Genta kato, Norio Ohmagari, Tetsuya Yagi.
21	田辺 正樹	三重大学医学部附属病院	ナショナルデータベース（NDB）を用いた地域別 抗菌薬使用量調査	学会	第87回 日本感染症学会 西日本地方会学術集会 第60回 日本化学療法学会 中日本地方会学術集 会 第65回 日本化学療法学会 西日本支部総会	2017	田辺正樹、村木優一、山崎大輔、 八木哲也
22	田辺 正樹	三重大学医学部附属病院	(引用)	報告書	薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書2017 (p8) http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000180917.html	2017	薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討 会

利用実績

No	提供依頼 申出者	所属機関	演題名	発表 形式	発表媒体	発表期 期 (年)	発表者
23	田辺 正樹	三重大学医学部附属病院	(引用)	報告書	インフォグラフィックで知る！ 薬剤耐性 (AMR) vol. 4 子供の風邪対策から薬剤耐性を予防しよう～知ろうAMR、考えようあなたのクスリ～ http://amr.ncgm.go.jp/infographics/004.html	2017	AMR Clinical Reference Center
24	猪狩 英俊	千葉大学医学部附属病院	ナショナルデータベース サンプリングデータを用いた 抗菌薬使用状況の疫学調査	学会	第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会、第64回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会	2017	山岸一貴 山崎伸吾 渡辺正治 高柳晋 櫻井隆之 谷口俊文 猪狩英俊
25	清水 栄司	千葉大学	成人肥満と精神神経薬剤処方数は関連する—平成25年度レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) オープンデータから—	学会	第35回日本肥満症治療学会学術集会	2017	松本淳子、平野好幸、須藤千尋、清水栄司、横手幸太郎
26	大鶴 繁	京都大学医学部附属病院	レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) を対象とした疫学研究に適した分析用データベースの構築	学会	ITヘルスケア学会第11回学術大会、名古屋、May. 28. 2017	2017	岩尾友秀、平木秀輔、大寺祥佑、酒井未知、加藤源太、田村寛、黒田知宏
27	大鶴 繁	京都大学医学部附属病院	A reconstruction method of health insurance claims database for epidemiological research	学会	生体医工学シンポジウム2017、上田、Sep. 15. 2017	2017	岩尾友秀、大寺祥佑、酒井未知、平木秀輔、大鶴繁、近藤英治、加藤源太、田村寛、黒田知宏
28	大鶴 繁	京都大学医学部附属病院	NDBを用いた心肺蘇生後患者に対する診療の実態調査	学会	第45回日本救急医学会総会・学術集会	2017	中谷友香、趙晃済、大鶴繁、岩尾友秀、大寺祥佑、加藤源太
29	大鶴 繁	京都大学医学部附属病院	NDBオープンデータを用いた侵襲度の高い救命治療の実態把握 —既存データを基準とした妥当性の検証—	学会	第45回日本救急医学会総会・学術集会	2017	加藤源太、趙晃済、中谷友香、大鶴繁、吉村健佑
30	伊木 雅之	近畿大学	National Data Baseを用いた骨粗鬆症診療の実態調査	学会	第19回 日本骨粗鬆症学会 (大阪国際会議場)	2017	玉置淳子、藤森研司、池原賢代、顧艶紅、神谷訓康、中藤真一、沖本信和、小川純人、伊木雅之
31	伊木 雅之	近畿大学	National Data Baseを用いた骨粗鬆症診療の実態調査	セミナー	公益財団法人骨粗鬆症財団主催プレスセミナー	2017	玉置淳子
32	成川 衛	北里大学	レセプト情報 (NDBサンプリングデータセット) を利用した高齢者における医薬品の使用状況調査	研究会	医療情報研究会	2017	成川衛
33	頭金 正博	名古屋市立大学	The Survey of the Compliance Situation to the Antihypertensive Therapy Guideline by Analyzing Japanese National Claims Data	論文	YAKUGAKU ZASSHI 137(7) 893—901 (2017)	2017	Hiromi Hagiwara, Ryouhei Nishikawa, Kazuki Fukuzawa, and Masahiro Tohkin

レセプト情報・特定健診等情報の提供に関するガイドライン（抄）

第12 提供依頼申出者による研究成果等の公表

1 研究の成果の公表

提供依頼申出者は、レセプト情報等を利用して行った研究の成果を申出書に記載した公表時期、方法に基づき公表する。

提供依頼申出者は、公表前に公表を予定する研究の成果について任意の様式で厚生労働省へ報告することとし、厚生労働省は、当該研究の成果とあらかじめ承諾された公表形式が整合的であるか、また、個人情報保護の観点から2の「研究の成果の公表にあたっての留意点」の公表形式の基準を満たしているか確認する。また、必要に応じて審査分科会の構成員が確認を行うこととする。

当該公表に際して、提供依頼申出者及び利用者は、レセプト情報等を基に提供依頼申出者又は利用者が独自に作成・加工した統計等についてはその旨を明記し、厚生労働省が作成・公表している統計等とは異なることを明らかにする。学会誌の投稿等を予定していたが、結果的に論文審査を通らなかったなどにより、申出書に記載したいずれの公表方法も履行することができず、新たな公表方法により公表を行う場合は、新たな公表方法について記載事項変更依頼申出等の提出を行う措置をとった上で、公表を行う。

2 研究の成果の公表にあたっての留意点

研究の成果の公表にあたっては、個別の同意がある場合等を除き、原則として利用者は公表される研究の成果によって特定の個人又は医療機関等が第三者に識別されないように、次の公表形式の基準に基づき、十分に配慮しなければならない。

第13 実績報告書の作成・提出

1 実施状況報告の提出

国の行政機関、都道府県又は市町村以外の提供依頼申出者は、研究成果の公表後速やか(3ヶ月以内)にその公表も含めた成果の概要について、厚生労働省へ利用実績報告書により報告する。

2 利用実績の公表

厚生労働省は、報告を受けた利用実績を取りまとめ、有識者会議に報告するとともに、必要に応じて利用実績をホームページ等により公表する。